

# みうらトーク&トーク 平成22年度第4回

日 時 平成22年8月31日(火)  
16時00分~17時00分

参加者 みうら観光ボランティアガイド協会  
15人

テーマ 「観光全般について」



## <意見交換>

**市長**

皆さん、こんにちは。日頃から本当にお世話になっております。

色々なご意見をお聞きしていますし、できることから順にやっているつもりです。

城ヶ島の馬の背洞門の件で、皆様や城ヶ島区からも多くのご意見をいただいております。この数年の間に県と色々相談をしていたのですが、県は管理外ということで、協力の姿勢を示してくれない状態でした。基本的には三浦市がやらないといけないので、洞門が崩れないようにするためにどの位費用がかかるのか試算もしました。しかし相当な費用がかかるため、市でやるのは難しい状況だということ、県に色々な場で話をしていました。ちょうど三浦半島の首長懇談会があったときに、私が切々と訴えたところ、知事が来てくれるようになり、現場を見てもらいました。そこで「貴重な自然遺産なので、ぜひ県としても城ヶ島一帯の景観を守るような施策を検討していく。」と良い返事をいただきました。これからまた具体的な検討に入っていくと思いますが、このようなことも、一步一步近くようにさせていただいています。

三浦の売りというのは「食」ですので、新鮮な魚や緑豊かな大地からの農産物、これらを食べてもらい、食をテーマにした観光施策をメインにやらせていただき、今日出席している経済振興部を中心に、他市には無い施策を展開しています。来ていただいたお客様をおもてなしする体制ということで、観光ボランティア協会の皆さんに色々お世話になっている面というのは、十分に我々も認識しております。今後、官民協働で、どのようにしたら三浦にお越しになるお客様をおもてなしできるかということで知恵を絞っていきたいと思っていますので、今日は短い時間ですが、忌憚のないご意見をいただいて活発な議論をしていきたいと思っております。

昨年も開催させていただき、色々なご意見をいただきました。駐車場の改革や、

うらりの 2 階の活用など、課題もたくさんいただいております。それらについての現状を、担当部から説明させていただきます。

職員 昨年開催させていただきました際に話題になったことがいくつかございますので、その点についてまず説明させていただきます。

まず一点目です。市内の観光マップについてのご意見をいただきました。昨年、「安価なもので無料配布できるものを作成してほしい」というご要望をいただいております。商工会議所が作成している下町のマップを今年リニューアルをさせていただきます。7 月終わりから 8 月頃に完成したと思います。現在三崎・城ヶ島周辺マップ、三浦海岸周辺マップの 2 つのパターンに分けて、三崎は約 1 万 5 千部、南下浦は約 1 万部印刷して使用していただいております。（地図を広げ）このように各店の名前が細かく入っております。作成にあたり、昨年「コンパクトなものを作ってほしい」というご意見がありました。折り畳んで持ちやすいものになりました。昨年いただいたご意見の中には「お店の名前が小さくて見づらい」というものもありました。その点については、商工会議所さんとも調整させていただきましたが、色々ご意見があり、「なるべく観光客の方がご利用するお店に絞ったらどうか」ということも頂きましたが、今回は会議所に加盟のお店が全て掲載される形になりました。ただ、食べる・飲む・泊まる・お土産というテーマ分けは、活かしたままになっています。

続けて 2 点目ですが、下町商店街の駐車場についてお話をいただいております。これについては、「下町商店街の駐車場、特に日の出の岸壁とログハウスの岸壁のところの有料化ができないか」というご意見でした。昨年と同様の回答となっておりますが、所管している神奈川県東部漁港事務所との調整に現在入っております。ただ、すぐに結論の出る問題ではありませんので、日の出から花暮までの駐車場のスペースと花暮岩壁のフェンスの向こう側について、現在も調整を続けていますので、今しばらくお時間をいただければと思います。

3 点目です。魚市場の見学の受け入れについてのご意見をいただいております。魚市場の見学について、日程の調整がなかなかうまくいかないということや、説明する場所についてのご意見をいただいております。今のところ、開いている時間、9 時から 10 時までに集中することが多くなっていますが、その中で見学時間の短いところに関しては学校側と調整させていただきます。それでもやはり見学日時の変更が難しい学校が多くございます。やはり遠足等で来られていまずので簡単に動かせないという事情がございます。したがって、すべての見学者を受け入れられない状況が続いていますが、それでも可能な限りすべての見学者を受け入れる態勢を作るよう、市場管理事務所をはじめ関係者に協力を求めています。皆さんのご理解とご協力をいただきたいと思いますので、

す。

4 点目です。うらりの 2 階のうみぎょうプレイスの話でございます。現在、うみぎょうプレイスには何も無い状態です。昨年も「地元との約束があります」というお話をさせていただきました。海業公社では、今年の 8 月のお盆の時期、8 月 12 日から 15 日の間にうみぎょうプレイスで「うらりのビール祭り」という形で、試験的にビアガーデンを開いております。その中で生ビールを中心に、枝豆や簡単なおかずなどのおつまみを販売しました。今後は、新たな展開に向けて進むように考えています。

昨年いただいたご意見に対する現状の説明については以上です。

市長

うらりの 2 階の件は、当時反対された皆さんとの協議の結果、レストランはやりませんという取り交わしをしました。今年の夏場は夜市に合わせてビアガーデンをやるという協議をして、「それくらいだったらいい」と言われました。

去年皆さんからお話を伺って、皆さんがご案内していただいた、うらりに来るお客さんのうちの 7 割くらいの方は「食べる場所がないのか」というご意見を仰っているという現実を、私も常に言っています。地元の下町商店街に飲食目的のお客さんが流れなくなってしまうということがあるのであれば、下町商店街の皆さんがうらりでご飯を食べさせるような算段をしたらどうかと提案をしているんですが、そこまではなかなか具体的にありません。商店街のほうになんとか人が流れるように、海業公社が昭和館を作らせていただいたりしていますが、経営的には厳しい状況です。商店街に人が流れるような仕組みと、うらりの 2 階の活用というのは公社の経営にも大きな影響を及ぼすので、今後も継続してやっていきます。今私が海業公社の社長をやらせていただいておりますので、話も徐々にはしているつもりです。

市民

お客様の声として、「どうして観光センターなのに 2 階で食べられないの」というお声がものすごく多いんです。

市長

レストランの経営だと当初から無理があったんですね。下で買った魚を捌いて、要するに魚食普及のための施設というのが設立当初の計画でしたが、今はそのような施設ではありません。あの空間を利用する 100 人規模のパーティー等で 2 階のプレイスを利用する人たちがいるので、そういう方たちのニーズにも対応できるような形を公社とも協議していますが、今徐々にやっている状況です。

市民

車で来るお客さんが多いですね。車を置く場所がうらりなので、下町のほうに大きな駐車場があれば、結構人が流れていくんですけどね。

市民 下町の日の出のところの交番のところありますね。あのあたりに駐車場があるといいねと話しています。

市民 あれは地元の人が無料で借りている、使っているという傾向がありますよね。

市長 そういう状態になっていますね。

市民 それをどういう風に管理していくかということですよ。あそこでバスが 5 台止まれば、そこでお客さんを降ろして、うらりまで歩いてもらう。下町で何かを買って、そしてまたうらりで買いたいものを買って、そして帰ってもらうという形だと、下町も結構観光産業で持つんじゃないですか。

市長 日の出のあたりで降りて、昭和の情緒豊かな商店街を歩いてもらって、うらりへ人が流れるというのが理想だと思います。

市民 今日「ちい散歩」( テレビ朝日の番組 ) でやっていました。結構、三崎の撮影があるんですよね。朝市などを重点的にやっていますが、下町を活性化するためにはやはり、そういう宣伝物も入れる。テレビで見ると余分なものは見えなくて綺麗に映すんですよね。撮影があった次の週の土日は結構人が来ますよね。

市長 今メディアには結構出ています。経済振興部が窓口で采配をしています。ドラマの撮影なども良くやっています。神奈川県内では三浦市と藤沢市くらいです。その点は自慢しています。ただ、それがお客さんに結びつかなくてはいけないので、今日の「ちい散歩」なんかをやると結構人が来てくれますね。

いずれにしても日の出から花暮のところは、漁港区域の管理と道路敷の横須賀土木事務所の管理に分かれるところがあります。東部で管理している岸壁があるので、私は東部で仕切ってくれっていう話をずっとしています。道路敷の方はどんな車が置いてあるのか、全部調査をしているところです。役所の職員が置いているなんて話もあって、とんでもないという話になっていますが。一応、全部調査をして、道路のところは横須賀土木事務所が将来的に道路公社に委託をして駐車場にするということを、今研究してもらっています。去年よりは話が進んでいます。ただ車がどかないといけませんね。

市民 週に何度か昭和館にいますと、同じ場所に同じ車がずっと停まっています。動いてないんですね。3 ~ 4 台あると思います。

**市長** 去年よりも内容的には進んでいるので、来年もこのような機会に同じような答えにならないようにしていきたいと思います。

皆さんお客様のご案内をしていただいています。我々はお客様の声というのを掴めていないと思います。良いと思って観光に関する施策を展開していますが、実際にいらっしゃるお客さんたちのご意見にどんなものがあるかというのを、ご紹介いただければありがたいのですが。

**市民** 皆さんの手元に、去年の我々の活動状況をまとめたものをお配りしていますが、昨年は1万人を超えました。そのうち半分以上が魚市場に来る小学生でした。これについては、昨年もしろんな点でお願いしたことがございますが、今年もどういった問題点があるかについて、(観光ボランティアガイド協会の)市場の担当から話をしてもらいます。

**市民** 4月から7月で魚市場に来ているのが全部で138校です。そのうち我々がガイドしたのは58校です。つまり80校はガイドしていません。58校ガイドして、その人数は5,461人です。それに対応した我々の人員は延べ79人です。我々の懐具合をお話すると、市には申し訳ありませんが、1人ガイドに出ると交通費として1,000円出ることになっています。我々が市からもらっている交通費が足りなくなる可能性があります。出来れば1人1,000円について市の方で1人につき500円位補てんしてもらえないかなというのは私の気持ちです。市の方も財政は苦しいと思いますが。

**市長** 1,000円はどこから出るんですか。

**市民** 市から観光協会を通して、今年度は27万円出ています。

**市長** 観光協会からのお金が30万円から27万円に減らされてしまったということですよ。それで、そこから1,000円を出していると。

**市民** そうですね。魚市場のガイド用だけのものではありませんが。ボランティア協会の収入はその27万円、それと観光協会の方から23万円。それで計50万円。それプラス、会員の会費。これが年間1,000円。これらがボランティア協会の収入です。ここから出しているわけです。

市民 うらりに土日は毎日詰めています。観光協会からの 23 万円は三浦市全体を案内するために、観光協会がボランティアガイド協会に出しています。それが、一人掛ける 1,000 円。魚市場のガイドもその 23 万円の中から出しています。

市民 去年の資料を見ていただくと、ガイドの延べ人数が 250 人ですので、一人 1,000 円だと、それで 25 万円が終わってしまい、足りない。そういう状況です。交通費の 1,000 円というのは、私はどんなことをしても必要だと思います。ご案内をするところに行くまでに交通費がかかるわけですから。そこまで持ち出しをしてボランティアをしてほしいということは、無理な話だと思ってしまう。だから、せめて交通費と皆さんの保険料くらいは会の費用から出せる形をとっていただければな、というのが私どもの切なる願いです。要望ではありませんが。

市長 要望ではないけど、厳しいという話ですよ。

市民 聞くところによると、最初、魚市場の案内は海業公社ができたときに魚市場に入ってきたそうですね。その時に海業公社が「やります」と言ったけど結果的にはできなかった。魚市場管理事務所ももちろんのことやれなくて、まわりまわってみうら観光ボランティアに話が来たという経過があります。我々は市から話を頂いたものなので、魚市場の案内をする場合には、できれば市から 1 人 500 円くらい面倒を見てもらえればありがたいなと思っているんです。

市長 わかりました。

市民 傷害保険をかけられない人がいるんですよ。各自で負担しなくてはかけられない。例えば他所の市では 300 円、500 円とガイド料を取っています。我々は取っていません。ですが、何かあった時のために会として保険をかけなければいけません。それがだいたい 5 万円です。それが今出せない状態で、個人負担してもらおうかと悩んでいるところです。

職員 なぜガイド料を取らないのでしょうか。

市民 ガイドのスタート当初、いろんな意見がありました。会員の大多数の意見が、スタートしたばかりだからまだ未熟だと、中にはガイド料をとるなら抜けるという方もいました。そこまでしてできないという人がいたのです。

市長 例えば学校でガイド料とか見てないのかな。

職員 見ていると思います。ガイドツアーでもありますから。

市民 おそらく、見ている学校と見ていない学校がありますね。

市長 いずれにしても、ボランティア協会の皆さんの状況を良く理解します。保険をかけていないというのはちょっと危ない。  
今年、平成 22 年度予算は土地開発公社の解散も控えて、特別厳しくやっています。その状況が良くなっているわけではありません。ただ私はこういったボランティアの事業や市民の皆さんが手弁当で手伝ってくれているような仕事には、きちんと予算対応してくれという話をしています。保険はすぐにはかけないといけませんよね。そうしたら、観光協会に出してもらうか。観光協会の方にすぐ相談して、4万8千円や5万円の財源を手当して、すぐに保険は入らないとまずいから。今年できるのは、それだけはすぐにやります。全体の27万円の市の観光ボランティア育成事業に関しては観光客の皆さんが増えて、対応している延べ人数も増えているということでないという理由になりませんが、そういう予算組みをさせてもらうことは約束します。

市民 27万円は、さっき話をさせていただいたように三崎の下町等の案内に対し、委託でもらっています。23万円は、研修、それから市内の案内所他を含めた案内のためにもらっています。市場の案内については、金銭面でこういうことがあるのはちょっと考えられない状態です。今特に、子供たちによる市場の見学が大きく増えています。それで、こういうお話をさせていただきました。

市長 その点も、例えば学校などの団体が見学するときにはガイド料を設置しても、今の時代はいいのではないのでしょうか。

職員 一律にもらうというのは難しいかもしれませんね。ガイドさんに頼むのであれば、1,000円かかりますよということ伝えるやり方が良いかと思います。

市民 そういう話をしていただければ良いと思います。

市長 ガイドの申し込みを受けるのは事務所が受けるの。

職員 事務所だったり、直接市場だったり、観光協会だったり、バラバラです。一律の対応で、「何人ですか、何人ならガイド料1,000円かかりますけどよろし

いですか」と了解をいただいた上でいただいたら良いかもしれません。

**市長** それは具体的に考えましょう。今はガイド料取るなら辞めるなんて方はいませんか。

市民 いませんね。

**市長** それはそれで次年度の予算の検討課題にします。  
まとめると、保険の分はすぐにやります。次年度の予算のことも観光客の皆さんが増えているということを考慮して一部考えます。市場のガイド料についても、いただくような方向で検討していきます。

市民 今市場で説明をできる場所として 1 部屋貸していただいています。それはご好意で貸していただいています。ただ、学校の数が増えると一部屋では間に合いません。200 人でギリギリなので。だからもう一部屋、この間空いているお部屋があったので、その部屋がまた賃貸で借りられるまでの間だけでも貸していただけると、例えば 6 校が来たとしても、3 校 3 校を別の部屋に入ってもらって説明することができれば 6 校全部受けられるんです。今の場合は一部屋しかありませんから、6 校のお申し込みがあっても 4 校までという形になる場合がありますので。

**市長** 部屋はどのなの。

職員 空いているのは、どこの部屋でしょうか。

市民 魚市場の売店の奥の方です。

職員 場所を見えます。空いている部屋で使いたいというのは分かりますが、一方で仲買人さんとの関係がありますから。大人数で来ますよね。「マグロの忙しい時間帯に来られては困る」という話が出てくるので。

**市長** 子どもがちょろちょろしてると怒られるのか。

職員 仲買人の皆さんの仕事の支障になったり、安全面では気を遣わなくてははいけませんね。

市民 手すりがありますが、乗り出す子がいます。それがあぶないですね。

- 市民 手すりのところに光が入らないように貼ってあるんですよ。
- 職員 我々も話をしましたが、マグロの色が光の関係で見られなくなってしまうということでした。
- 市民 ブラインドみたいなものでも駄目ですかね。
- 職員 難しいんじゃないかというふうに言われています。
- 市民 見学で多いのは小学3年生位です。背の小さい子が結構います。それであそこに目隠しがあると乗り上がる。それで見えない場合は手をかけて飛ぶんです。中には足をかける子もいる。危険性があるんですよ。
- 市民 我々がガイドを頼まれた学校なら事前に話をして注意ができるんだけど、そうでない学校も一緒の時間帯に入ってくるんですよ。そういう学校が危険なことをすると、「注意したことにならない」ということになりかねません。
- 他に皆さん、観光客の声があればおっしゃってください。
- 市民 先ほどのパンフレットの件ですが、この間、ここのお店の電話番号を教えてくださいと突然言われました。番号は分からないというところ「電話番号くらい調べてくれよ」と言われてしまいました。次に来る時に予約をしたいとか、そういうことがあるんですよ。無理だとは思いますが、電話番号を入れていただけると嬉しいです。
- 市長 ここに入れるのは無理なので、リストがあるでしょう。
- 職員 会議所としては名簿を持っています。
- 市民 そういうものを私たちのほうにくだされば教えられますが。
- 市長 それは良い話だから、会議所に言って、リストをボランティアの方に提供するとおっしゃってほしいです。
- 市民 せっかくまた来たいのにとのことなので。それをうらりのところに置いておけば説明できますので。

市長 できればジャンル別に、なおかつ「あいうえお順」の方がいいですね。

市民 電話番号と住所もほしいですね。

市長 それはすぐに会議所にリストを作ってもらおうようにしましょう。

市民 よろしくお願いします。

市民 有名なお店は私たちもすぐに分かりますが、いつどの番組でやった店と言われても分からないので、そういう資料もあれば教えられるのですが。

市長 テレビの情報を把握するのは難しいかもしれませんね。

市民 我々がガイドする中で魚市場の次に多いのは七福神です。しかし、妙音寺のすぐそばまでバスで行けません。住民の方との問題があって。歩くしかないんです。

市長 妙音寺の問題なのでしょうか。

市民 仲田区の住宅の真ん中を通るのが狭いから、大型バスは入るなという苦情があったんです。今年も行きと帰り、一部分で迂回のようなことをやっていたのが「これではダメだ」というクレームがつかしました。三崎警察署へ直接通報されたり、トラブルが絶えません。妙音寺としても、寺の周辺にお住まいになっている方ですから、住民最優先で考えなければいけない。言われるままに、一本の道だけで交代ができる範囲でいくと、1時間に2本が精いっぱい。そうすると観光バス誘致の数に制限がかかる。

三戸の京浜急行の土地を観光協会で借りていただいて、そこを大型バスの停車場に設定しましたが、駅まで行って、ガード下からぐるっと行くと30分以上歩きます。これは合理的ではない。ということで今非常に困っています。

市長 駅の下まで観光バスで来て、降りてもらって歩いてもらっているんですか。

市民 その先でUターンして停車場に戻って、観光客の方が妙音寺を出るときに電話をしておいてもらって、迎えに来てもらうという苦肉の策でやっています。寺と住民との間でもう十何年やっていますが、どうしても対立の構造ができてしまします。できれば行政に入ってもらって、相談の間をとってもらいたいと思っ

ています。

市民 どの観光地も結構歩きますが、特にあそこは歩きますし、帰りは上り坂になってしまうんですね。

市民 京急の駅の坂の下の鉄橋のところでお客さんが降りると、あそこは結構交通量が多いです。そこで観光バスから降車していると、通る人がイライラしてクラクションを鳴らします。お客さんとしては感じも良くありません。それだけのスペースがあそこには無いんです。

市民 三浦スポーツ公園のテニスコートの下あたりのスペースは、市の土地ではないのでしょうか。

市長 民地です。でも住宅街の通りを通ってはいけないということなんですよ。

市民 住民としてはそうですね。大型バスは入れてくれるなという姿勢です。最近はわりに少なくなってきましたが、色々なトラブルがあります。お寺さん側としては「ダメだ」と言われてしまっは、それを回避しなくてははいけませんし。

市長 何か良い方法はあるかな。

市民 行政が自治会との話で入っていただければね。

市長 妙音寺さんの問題ではないということですよ。

市民 昔、あそこは全部田んぼでした。だから「我々は静かな田園地帯に静けさを求めて入居したんだから、これを大型バスでしょっちゅう行き来をやられては生活に支障をきたすし、あぶない。」という意見です。

市長 簡単には解決しない問題ですね。

市民 だから十数年やっていますよ。全部歩いてくれるお客さんなら良いのですが。

市民 バスに関して、今、観光のバスは東回りをしています。西回りで来るにはひとつ問題点があります。

市民 歌舞島のところ、魚市場の方から小網代の方の西海岸線に回るところのカーブに中央分離帯があり、そこにポールが立っていますね。大型バスの長さが 12 メートルとトラックよりも長いので、ポールに当たります。魚市場側から 3 本位取ってもらくと、小網代方面から左カーブで当たらなくなります。右折のときはいいんですけど。

市民 ポールがなければ、西回りで来る七福神も時間帯を分けてできるんですが、今のところは東回りしかできない。わざわざ油壺入口まで行かないといけない。

市長 それは棒にぶつかるからという話ですよ。

市民 棒があるので。結構見てみるとポールが黒くなっていますよ。

市長 真っ直ぐ行って、市場の中の加工場の方を抜けてくるのはダメなんですか。

市民 あの通りは、そのまま真っ直ぐ行く道路じゃないから。

市長 要するにポールが多いから抜いてくれということですね。  
それは確認してみます。

市民 あと、昨年少し話をしましたが、マンションについてです。城ヶ島のマンションは大丈夫ということでしたが、景観条例みたいなものがどうなっていますか。

市長 今準備をしています。

市民 高さに関するものができるということで、それは何とか大丈夫かなと思います。それとはまた別に、真鶴では条例で景観が揃っているんですね。ああいうことができないのかな。

市長 三浦は自然景観が売りなので、それはそれで大事にしていますが、あまり規制をかけていくということは、財産権の侵害にもなるので慎重にやりたいと思っています。いろんなご意見をいただいて、全域を 12 メートルまでに抑えろとか、市内一律に 15 メートルまでにするというご意見もあるんですが、私は一律そういう風にするのは考え方として良いとは思っていません。以前計画されていたような突飛な建物は必要無いかもしれないけど、例えば、市街地を形成する地区と古い町並みを残していく地区という色分けをきちんとする。駅周辺区域まで高さを

抑えてしまうと、財産の権利も高いですし、それを規制することが果たして良いものかという考えもあります。葉山町は「海岸から何メートルまでは 12 メートルに抑える」とやっていますが、あそこには駅もありませんので、三浦市内を一律に対応するというのは難しい考えです。

原案を作り、パブリックコメントなどをやり、これからまた議会でも議論をしていただいて、最終的に都計審（都市計画審議会）で決定していきます。市内全域の都市計画法に基づく高度規制をして、それを次の段階の景観条例を意識してやっていきます。三崎の町に 50 メートル 80 メートルのものが必要という意見は多分無いと思うんです。先ほどの城ヶ島のマンションの話とか向ヶ崎のマンションの話は潰れていますから、次にはできないと思います。ただ駅周辺区域、三浦海岸駅の周辺や三崎口の駅の周辺というのは一程度の高さまでは容認をするとか、土地の利用に関して地区計画というものを作って、土地の利用をきちんと明確にしていこうという手法をとろうと思っているので、これから色々なご意見をいただくと思います。

市民 先ほど城ヶ島の馬の背洞門の話を知りましたが、あの脇に階段がありますよね。あれが観光客の方と一緒に歩いていると「怖い」っておっしゃるんですよね。

市長 脇の鎖のあるところですか。

市民 そうです。下に降りるところの岩のところ危ないので。そこが何とかうまくならないかなと。

市長 それも含めて検討してもらっています。城ヶ島の高台のところは畑になっていたり農作業用の道路もありません。区で駐車場事業を始めていますので、その収益を城ヶ島の観光振興に使うことになっています。軽自動車が入れるくらいの道を作るということもやっています。馬の背洞門の下った場所は、この間現場を見に行きましたが、実態としては危ないですね。それも含めて城ヶ島全体のハイキングコースの整備をしようと思っています。ただ、「水っ垂れ」のところは、バリアフリーまでは、たぶんどけないと思います。

市民 うみうのところまでは、昔天皇が来たから平らですよ。

市民 あの先を、雨上がりの時に歩いてもらうと怖いですね。

市長 この間、県知事はうみうのところを見た？

- 職員 見ました。
- 市民 階段の話ですが、ずーっと先に行って灯台の傍に降りる階段、あそこも入っているんでしょうか。
- 市長 車椅子で利用するというのではなくて、歩いていけるようにということです。今、横須賀の県政総合センターで原案を作っています。そこに市の職員も入って一緒に調整をしていますので、そちらも多分一緒に入ってくると思います。今後もし教えていただければ、入れ込んでいきますので。
- 市民 みなさん他に何かありませんか。
- 市民 幼稚園くらいまでのお子さんをお連れになった家族づれの方が、うらりに来てお土産物を見て、「子供を遊ばせる場所はありませんか」とよく聞きます。昔は歌舞島があったけど今は無いから、白秋号に 200 円で乗っていただいて、灯台の下に砂浜がありますから、そこで遊べるとは言っています。歌舞島を埋めたところは入って遊んでもいいんですか。
- 市長 二町谷の埋めたところですね。まだ入れません。公園の方は入れます、ちょうど右側のところ、市営プールの反対側です。あそこは自由に遊べます。
- 市民 ただ、草ぼうぼうですごいですね。プールの裏のところを時々歩きますが、そこがすごいです。でも 200 円の白秋号は案内しやすいですね。200 円で 5 分で城ヶ島まで行ける。そして戻ってくる時はボタンを押せばすぐに来ますよと言うと安心してくれます。200 円というのがバスより安くて良いのかな。
- 市長 二町谷は多額の借入れをして一旦整理をする形で進めています。前に進むために、多額の負債を背負ってしまいましたが、それによって二町谷の土地を活用して、企業誘致も進めて、経済を活性化させて、負債の分を取り返そうということで進めています。安く売ることもできますが、簿価との差額を市が補てんをしなくてはいけないんです。まとめて売った場合には数十億という資金を用意しなくてはならない。それは現実にはできないので、今回そういう選択をしました。今、過去の責任はどうだと、無視して勝手に借金を作るとんでもないと言われています。ただそれをやらないと前に行けないので、今そういうことをやらせていただいています。これから広大な土地を企業に進出していただいたり、観光拠

点としても二町谷とうらりと下町が連携するようなことも考えられます。加工工場も、今は衛生管理が厳しいので、衛生管理のされた加工場を作る必要にも迫られています。

あの広大な土地は三浦市の大きな財産なので、それを慎重に進めていきます。まだ具体的にどういう企業が来るということが決まっていないので申し訳ないのですが。

市民 孫が安心して住めるような町にしてほしいですね。

職員 それでは時間になりましたので、トーク&トークを閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

公表については了承を得ております。